

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「寄り添い、耳を傾け、笑顔を忘れることなく生活できるよう共に歩みます」の理念は継続しており理念を共有し理念に基づいた介護を目指して努力しております。	会社の理念と事業所設立時に独自の理念である「利用者様と共に笑顔で過ごせるよう努力する」が、来訪者も見やすい廊下に貼り出されている。入職時、職員に説明し、達成できているかどうか会議などで確認しながら理念に基づいた介護を目指している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍になってからは、全く交流がなくなってしまったが、地域の方が気にかけて下さり野菜を分けて下さったり日常的な交流は行っている。	以前は地域のデイサービスに遊びに行き、利用者同士が知り合いの人などにも会え、交流出来ていた。地域の方とお茶会等楽しみも多くあったが、現在難しい状態が続いている。地元区長さんの訪問や、近くの方が野菜などを今も置いて下さるので感謝しながら、世の中の落ち着きを期待しながら、デイサービスのボランティアの方や地域の方に声をかけて、いずれ再開していきたいと広報誌を地域の回覧板に挟んでもらうなど実施している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の方と直接的に関わる期会を、地域の行事に参加していたが、今現在は行うことができていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回、開催している。今現在は書面での開催となっているが、活動内容、利用状況、毎月のおたよりも同封している	コロナ禍の現在、書面で運営推進会議を開催していたが、この9月に久しぶりにメンバーの参加を得て対面開催を行った。前もって出された意見で、「事故報告やヒヤリハット報告なども運営推進会議の中に入れてほしい」との意見もあり、管理者は、その意見を法人等へ報告し相談対応している。	前回の外部評価においても運営推進会議への理解・活かし方について課題があげられていた。運営推進会議は事業所からの報告とともに参加メンバーや地域からの意見をやり取りし、検討や共有出来る大切な機会である。今後は「各家族への会議内容報告を含め、現状への理解と確認、その情報共有や意見などの検討・実施状況の説明」など、会議内容を活かせるよう期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当者にも、運営推進会議に出席していただき、今現在の状況等把握していただき、いつでも相談できる関係性は築いている。	市主催の集まりは、開催や出席が難しい状況があった。今回のコロナワクチンの接種に関する質問等で連絡を行い相談するなど、いつでも相談できる関係を築けている。	
5	(4)				
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束排除宣言や職員論理を玄関前に掲示。オンデマンド研修にて、身体拘束をしないケアを各自理解して頂いている	身体拘束禁止については「オンデマンドで各自プログラムに沿った研修」がなされており、マニュアル整備されている。しかし職員の忙しい時には「ちょっと待って」の声が重ねて聞こえる時もある。管理者は状況からグレーゾーンの言葉が気になり、オンデマンド研修のほかに具体的な話し合いをして研修に繋げている。	
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	研修等で学び理解を深めている。入浴時やおむつ交換時の身体チェックも行い、情報を共有しながら安全性に努めている	オンデマンド研修で各自虐待について研修しマニュアルも用意されている。今後も高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会をつくり、マニュアルの見直しなどを行うことで、虐待が見逃されることのないよう防止に向けた取り組みの継続が期待される。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に成年後見制度を利用されている利用者様がいた為、学ぶことができた。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、重要事項と契約書の説明を十分に行い、入居前には事前にホームを案内し理解、納得したうえで契約して頂いている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時には気軽に話しやすい雰囲気づくりに努め、必ず状態報告をしてケアプラン変更時は意見や要望等伺うなどしている	これまでは毎年恒例の行事があり、その時には職員の紹介をしたり、家族の方の参加や意見も多くあったが、しばらく行われていない状況である。今回、外部評価のアンケートに家族からの意見をもらい「ありがたい」と管理者は話している。今後もアンケートや頂いた意見等を運営に反映させ、利用者の安心が家族の安心に繋がる話しやすい環境づくりが期待される。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度職員会議、ユニット会議を行い職員の意見を反映させている。	職員会議での意見「夜勤に入る時間」について話し合いを重ね、事業所職員の意見を法人本社に管理者が報告し、他事業所と少し違う夜勤入り時間を提案して現在施行されるなど、職員意見を運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は会議を通して施設全体や職員の様子を把握できるようにしている。また、働く環境にも配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修やオンデマンド研修を行い、職員の質の向上に努めている。また、資格取得にも支援制度があり、ここが意欲を持って取り組んでいけるよう支援している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	3か月に1回、GH管理者の意見交換会を開催し情報交換を行っている。また、年1回の交流会を行い職員同士の悩み事等共有している。また、ラン伴への参加を行っていたが現在は制限されている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ケアマネ、家族から情報を頂き、サービスを開始する前段階で意向を聞き、本人の発する言葉や表情等に耳を傾け、要望等を聞き取るようにしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が求めているものを、入居前の段階から聞き取れるような時間を確保し、納得して利用できるように心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期の段階で必要とする支援を、家族、本人、職員の意見を取り入れながら、支援できるよう努める。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常の何気ない会話の中にも、ヒントがあり個性の尊重を大切にしその人に合ったこみにゆけーションをとっている。		
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍でもあるが、外出や外泊ができない中でも家族との関係が保たれるようできる範囲で協力をお願いし、職員が支援できるよう努めている。	これまでオンラインやガラス越しの面会が行われてきたが、この10月15日よりようやく予約制ながら、直接家族の面会を可能として実施し、喜ばれている。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	窓を隔てての面会ではあるが、お互いの会話が聞き取れないときは職員と一緒に会話を楽しみ、写真等利用している。地域の方からも季節の野菜を頂くこともあり、馴染みの関係が継続できるようにしている。	コロナ禍の現在ではあったが、家族との窓越し面会や地域の方から野菜を頂戴するなど、交流は工夫しながら続けている。地域の理髪店からの定期的な訪問や地域の医師の往診などを通して「いつもと同じ」を大切にしながら関係性が継続できるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	1人1人楽しく過ごせるよう、職員で情報交換しながら気の合う方の関係が保てるよう調整している		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	以前利用されていたご家族様から、新たな入居の相談を受けたり、野菜や備品等の寄付をして下さったりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前に本人、家族からの情報を得て本人の思いや意向の把握に努めている。意思疎通が困難な場合は、今までの暮らしが継続できるよう共有している。	入居の希望があり入居が決まったとき、事前訪問を居室担当者と管理者が一緒に行っている。今迄の普段の生活の様子を出来るだけ見せていただいたり、聞き取ることで、本人のこれまで大切にしている事柄や関係性などを受け止め、支援に活かしている。	
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に「暮らしの情報」をご家族様に記入していただき、本人や家族、ケアマネジャーから情報を頂き、把握している	開設時から、入居時、家族に趣味や毎日していること、本人が何が得意だったかなどの「暮らしの情報」を家族の言葉で記入してもらっている。本人からの話や居宅介護支援専門員からの記録も大切にして、今迄の生活を無理なく継続できるよう支援している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状態を見ながら、申し送りにて報告し合ったり常に情報交換を行い把握できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画のアセスメントやモニタリング評価は居室担当者が担当している。ユニット会議で話し合い介護計画の作成に繋がっている。	介護計画作成1ヶ月前に担当職員から利用者の状態や気付きを意見録に記入し提出してもらい、介護計画を作成している。ユニット会議でも利用者の状態で気になることがあれば話し合い、チームで情報共有しながら利用者の介護計画に繋げている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録や申し送り、支援経過等で情報を共有している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人やご家族の状況に沿って対応を行っている。その時々で柔軟な対応ができるようにしている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍前は、地域のお茶の間や行事に参加していた。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	嘱託医が同じ吉浦に住んでいることもあり、月に1回の往診のほか、週2回のNS訪問にて適切に対応し、往診も来て頂いている。	事業所より2km圏内にある診療所の嘱託医と看護師との関係性が良好であり、嘱託医の月1回の往診と看護師の週2回の訪問により適切な医療を受けることができている。24時間オンコールにて土日関係なく電話対応してくれている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週2回の訪問で、細かな相談事など気軽に相談でき適切なアドバイスが頂けるような関係を築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	嘱託医が医療機関と連携し、入院等に繋がっている。また、ケースワーカーとの連携もスムーズに行われている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期の対応として嘱託医からご家族へ施設で行う事ができる事の説明を行い、ご家族の希望を優先的に行うようムンテラを行い、看取りに繋がっている。	入居時に看取りについての説明がされており、かかりつけ医の協力もあり、ムンテラには医師も同席し直接、医師から家族に説明をすることで家族も安心することができ、医師と職員との連携により事業所での看取りが行えている。利用者がターミナル期となった際は、利用者の個々の状態に合わせた看取りマニュアルが作成されており、医師や看護師からのアドバイスを看取りマニュアルに反映し、看取りケアに繋がっている。	
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルは、コーナーに設置し、嘱託医、NSとも常時連携できる体制になっている。	各ユニットに緊急時のマニュアルが設置されており、ご利用者の急変時にはかかりつけ医の24時間オンコール対応の体制が整っている。また、毎日ベル番が3人おり、緊急時にはすぐに駆け付けることができる体制になっている。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を実施。避難用の備品の確保も見直しを行っている。	過去に一度、地震による津波が来た際の訓練を行い、消防署の人にも見てもらったが山までの避難が困難であるとの判断に至っている。毎年、地域の方と一緒に市の防災訓練にも参加している。水害時や土砂崩れが起きた時など災害時のことに関しては、地域運営推進会議でも話し合われている。ライフジャケットや備蓄の管理がされており、いつでも使用できるように玄関に配置されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者個々の行動を制限せずに、一人ひとりの人格を尊重し気持ちに沿った対応に努めている。	法人で統一されたプライバシーの保護についてのマニュアルがあり、職員は年1回必ずプライバシーの保護に関する研修をオンデマンドで受けている。排泄時などの声掛けには特に配慮するよう心掛けており、利用者のプライバシーの保護や人格を尊重するような声掛け、対応を行うよう努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望を引き出し自己決定できるような言葉かけを行い、サポートしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースに合わせてそれぞれが好きな時間を過ごせるよう本人の要望に合わせて過ごしていただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問利用や季節感のある服装を心がけ、整容の支援を行っている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	今日のメニューを会話に取り入れたり、誕生日には好きなメニューを取り入れたりしている。食事の準備やあと片付けを職員と一緒にやっている。	献立は旬の食材が使われており、季節を感じることができるメニューになっている。利用者の誕生日には本人が希望するメニューを提供している。誕生日会では職員が工夫しながら誕生日スイーツを作り利用者を楽しんでもらっている。コロナ感染対策を徹底していることもあり、利用者へ調理やお茶出しをしてもらうことは中止しているが、片付けなどできることは職員と一緒にやっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事量、水分量をチェックし個々に合わせての食事を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後のケアは個々に応じ対応している。義歯の方は夕食後にお預かりし洗浄している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のパターンを把握し、時間でのトイレ誘導を行っている。また、本人の何気ない動作を見抜き失敗を軽減できるようにしている	利用者全員の排便チェックを行い、朝は牛乳を提供したり水分を多く摂ってもらったりしており、必要に応じて訪問看護師に相談し排便コントロールを行っている。利用者の様子を見ながら適宜トイレ誘導を行いトイレでの排泄を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便は、毎日の申し送りで周知できるようにしている。乳製品や水分等で調整したり内服等の調整も行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週3回の入浴には縛りはあるが、個浴と機械浴で分けて安全に入浴できるよう配慮している。	入浴日が決まっており、一人ひとりの希望やタイミングでの入浴とはなっていないが、ユニットごとで協力し、利用者のADLや状態に合わせて個浴か機械浴を選択できる環境であり、安全に入浴が行えている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の体調等にも配慮し、休むよう声をかけたり生活のリズムが整うよう配慮している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された薬の用法、用量、副作用等書かれたファイルを薬と一緒に置いてある。職員全員が把握できるよう薬詰めも職員が行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の好みや、能力に応じて作業を提供し負担にならず、楽しんで行えるよう提供している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の為、外出等出来ない。近道を散歩しながら景色を楽しんだりしている。	現在もコロナ禍のため、事業所周辺の近所を散歩する程度の外出となっている。毎週土曜日に移動販売が来るため、希望する利用者には購入してもらっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	毎週土曜日に移動販売が来て下さり、そこで自分の好きなものを購入して頂いている。お金の管理はホームの方で行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や、知人からの電話は取り次いでいる。また、手紙の代読も行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースには季節に合わせた飾りつけをし、季節感を感じられるようにしている。廊下には所々ベンチが置いてあり、行事の写真が掲示されてゆっくりとくつろげる。各棟にいつでも行き来できるようにしている。	リビングや廊下などの共有空間は明るく、装飾が得意な職員が協力し共有スペースに季節を感じられる飾り付けの工夫がされている。ユニットの往来が自由にでき、利用者も職員も事業所内どこにいても居心地の良い空間づくりがなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った利用者様同士が楽しめるように、その時々に合わせて場所を提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人、ご家族の要望に応じて馴染みの品々を自由に持ち込んで頂いており、居心地の良い居室づくりに努めている。	入居時に可能な限り自宅にあるタンスなどの馴染みのものを持ってきてもらい、自宅に近い環境で暮らせるよう配慮されている。ベッドの配置は利用者の状態や要望に合わせ決めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	職員間で情報を共有しながら、安全に動作が行える環境をタイムリーに対応している。		